

令和6年度地域包括支援センター事業運営評価(自己評価・市指標)集計

資料3-2

ゆず	独自事業(ゆずクラブ・脳血管当事者の会・ケアマネさろん)は計画通りに実施した。継続して地区まちぢから協議会の委員としての定例会や地区ボラセン・地区社協の会議へ出席し、一定の協力体制を推進した。地域ケア会議は年2回開催。地域活動充実事業の一環として、地区社協主催の街歩きを元に地域課題の抽出を行い、閉じこもり対策、情報収集周知、共助力の低下が課題として把握が行えた事で、ネットワーク会議で意見を深め、次年度への継続取組みの土台が出来た。地区まちぢから協議会にて、茅ヶ崎地区認知症高齢者数推計の報告を行い、それを元に認知症支援の実働部隊となる、チームオレンジ活動を報告した。地域サロンでの認知症勉強会や健康体操の実施、ゆずの年間活動の周知を行う等、地域団体・地域住民とのネットワーク構築を推進した。イオンスタイルにて、イオンスタイル・(株)ニッショウと共催で地域住民向け健康イベントの開催を行い、イオンが求めている地域貢献のニーズが合致した為、今後も共同企画を行っていく事となった。
つむぎ	消防訓練では、自治会や近隣の医療施設から「避難経路が分からない」等の声を頂いたことから、テナントで入っているビルの管理会社と連携し初の津波一時避難訓練を企画・開催。約20人が参加し、自治会や地域住民と共有の場を設けた。地域ケア会議は孤立死をテーマに開催。地域の気づきの目(セーフティネット)として考えられるものや、個人または自治会単位で始められること、将来性を持って取り組んでいくべき事柄について参加者26名と意見交換を行った。また地域課題として一部地域で買物難民となっている方達に対して、移動販売を検討し社会資源の一つとして活用できるよう関係者と協力し実施に向けて検討。認知症地域支援推進員としては、家族介護教室で「認知症の症状と受診のタイミング」をテーマに企画・実施し、家族介護者からの様々な意見を共有する場となった。また、幅広い世代に向けて認知症に関する正しい知識を普及啓発していくうえで講座の案内等やプレゼンを企画。
れんげ	6年度は認知症関連事業に積極的な取り組みを行った。チームオレンジメンバーに対して地域で生活する認知症の当事者や家族の課題について話す機会を設け、積極的な活動につなげられるよう包括主催の「認知症サポーター養成講座」に参加してもらえた。また、小学生児童に認知症を含めた高齢者の生活課題について知ってもらい、「共に生きる」ために何ができるか、などを考えてもらう機会を持つことができた。地域住民より、こんな大きなことはもっと多くの人に対して知ってもらったほうがいい、という感想をもらっている。介護予防や介護保険制度の周知については地区社協で勉強会を開催し、制度全般について理解を深めてもらうことができた。権利擁護については、地域の金融機関に講話を依頼し、地域の目録での消費者被害防止に向けた取り組みを住民に伝えた。地域ケア会議は「空き家対策」「災害への備え」について開催し専門家を交えての話し合いの場を持つことができた。
あい	今年度は、健康相談や介護・認知症予防に力を入れて、海岸地区の住民に対して幅広く相談を受ける事の周知を行い、気軽に相談できるよう2回のサロン(延べ127名参加)や月1回の体操教室(延べ246名参加)の開催、地域の行事や会議等顔の見える機会を積極的に活用した。地域ケア会議では、地域の課題として認知症になっても安心して暮らせる地域を目指し、認知症の人に優しい暮らしのアイデアを考えるをテーマに取り組み、チームオレンジの活動を周知、地域の関係機関の理解を得て、協力体制を築き、来年度地域活動として社会資源の開発につなげていく取り組みを行った。人員については、欠員を補充でき業務を継続できるようしっかりと引き継ぎを行い体制を整えることが出来た。
さくら	地域に密着した総合相談窓口として、市主催の人材育成研修に加え性的マイノリティ・依存症や引きこもり理解など幅広く研修を受講し、伝達講習を行うことで全職員の対応力向上に努めてきた。消費者被害に関して「サロンつるみね」での消費者被害講座の開催をはじめ自治会ごとで開催されているサロンでの消費者被害に関するチラシの配布・注意喚起、また社会福祉士部会の動画作成に協力し被害防止に向けた活動を行ってきた。地域共生社会実現のための取組として各種地域団体の会議に出席情報共有すると共に市役所の担当課を含め消費者センター、後見支援センターなど適切な専門機関と積極的にネットワーク構築を図ってきた。地区支援ネットワーク会議での地図作成、地域ケア会議では鶴嶺東地区内の障がいのグループホームと情報交換を行った。
みどり	令和6年度に予定した事業は全て開催することができた。まちぢから協議会、民児協定例会や地区社協ネットワーク会議への参加等連携を図り、初めての試みであるサマースペースでの認知症サポーター養成講座の実施等後方支援を行うことが出来た。地域行事は地区福祉祭りの開催や、高齢者昼食会等多くの行事に参加し、消費者講座を行った。独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のためのポールウォーキングも継続実施した。認知症サポーター養成講座については地区内専門学校生、自治会を対象に開催した。広報活動として「みどり通信」の定期的な発行と配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内に活用した。また、地域ケア会議を地区ネットワーク会議内で開催したことや、高齢者の活動の場としてみどりファームも継続実施し、認知症当事者やボランティアの参加等今後のチームオレンジの土台作りを行うことが出来た。
すみれ	重点的な取り組みとして、社会参加が苦手な人でも、誰もが参加できる場を作る事を目的に男の料理教室(4回)や浜見平みんなの映画会(3回)を多機関と協働して開催した。男の料理教室は、徐々に参加者が役割を持つようになっている。浜見平みんなの映画会には298人が参加した。認知症に関する取り組みとしては、中島中学校の2年生を対象に、夏休みには小学生と保護者を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。湘南オレンジdayは2年目を迎え、延べ211人の参加があった。地域ケア会議は6回開催し、個別課題は8050親なき後の支援についてや独居高齢者の安否確認、認知症高齢者の徘徊見守りについて地域住民や警察、UR、民生委員、ケアマネと検討した。職員に関しては4月より保健師が配属され、準ずるのを含まず、3職種を配置する事が出来た。
くるみ	国34・Q45項目について、R4年度、5年度と取り組みができなかったが、今年度はケアマネジャーのアンケート結果に基づいて、司法書士とケアマネジャーを交えて「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」について意見交換及び勉強会を開催した。本人の意思の汲み取り方法の工夫やチーム員メンバーの選出、本人が意思を表出しやすい環境設定の重要性を学ぶ事ができた。地区内のカフェ店舗を活用して、くるみで作成した社会資源マップをケアマネジャーへ情報提供するなど、新しい取り組みも実践した。「行事への参加」を目的とした送迎支援の取り組みは継続しており、松林地区の新たな社会資源として地域に浸透してきている。認知症カフェの開催については、全4回開催し、いずれもステップアップ講座修了者の協力を得ることができ、引き続きチームオレンジの体制整備に向け、検討を行っていく。
あかね	・認知症サポーター養成講座のステップアップ講座修了者の意見交換を開催したことに端を発し、甘沼地区と鶴が台地区での認知症の相談会が開催されるようになった。 ・自主事業の講座を松風台自治会館で、家族介護教室をみずきコミュニティハウスで開催するなど、活動場所が偏らないよう改善に努めた。 ・香川公民館との共催で介護予防講座を開催した。今後の継続も検討しており、協力関係を構築していく。 ・在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対しては相談案件がなかった。
青空	昨年度末の職員の退職に伴い、令和6年度は職員体制に変更が生じたが、引継ぎが適正に行われたことから、包括的支援事業等の委託事業、及び従来行ってきた地域活動を計画的に実施することができた。特に地区社協主催の「ふれあいサロン」への開催協力や、地区ボランティアセンターの定例会議に通年で参加したことで、地域住民同士による助け合いの活動を直接的・間接的に支援できた。消費者被害防止の周知活動については、「だまされない新聞」を毎月発行した他、小和田地区コメンで寸劇を上演するなど、住民に興味を持たれるよう工夫した。チームオレンジ主催の認知症カフェ「ふらっと茶屋」は毎月開催しだけでなく、家族の会「オレンジの集い」の創設、新たな支援者の発掘や参加者の勧誘など、活動の拡大と内容の充実にも協力した。
さざなみ	今年度重点的な取組方針についての評価を中心に記載する。 ①認知症になっても暮らしやすい地域づくりの推進として、認知症サポーター講座を小学生、ボランティアセンタースタッフに実施した。またチームオレンジや関係機関の方の協力を得て、地域住民や介護者家族が交流できる場を定期的に開催することができた。 ②介護予防の推進として、「さざなみ体操」を週1回実施した。地域の介護事業所や整骨院、趣味サークルに協力いただきゲスト講師として参加してもらったことができたことは、介護予防に関するサービスや趣味活動を知るきっかけづくりにもなったのではないかと思っている。 ③関係機関との連携推進として、まちぢから協議会定例会、地区ネットワーク会議、コメンまつりや福祉まつりへの参加、公民館との共催講座を開催した。
あさひ	・地域ケア会議について、個別事例では「地域で孤立している方」への支援を出発点に同様のケースを含めた対応方法を検討した。(※令和7年度も引き続き取り上げる)地域課題では「防災」をテーマに地域住民と介護事業者を招聘し、「顔の見える関係づくり」と避難所運営を含む協力関係構築に成果があった。 ・あさひカフェ(認知症カフェ)は月1回開催を継続でき、新たなサポーター及び資質向上を図ることができた。「チームオレンジ」構築に向けて若い世代、関心の薄い層へ活動を広げていく。 ・生活支援体制整備事業では、コーディネーターネットワーク会議等を通じて、市社協・地域福祉課等と課題共有を行うなどして連携をしている。「はまかんまつり」での協力はその実践と考えている。
わかば	・障がい者施設の多い地域の強みを生かして、包括あかねと合同で「障がい・高齢、垣根を超えた連携づくり」のテーマでケアマネジャー向け勉強会を開催できました。 ・チームオレンジ活動は、名称とリーダーが決まり、チームオレンジ主催での家族交流会を2回開催できました。来年度に向けて、メンバーからの発案で年間計画を立てることができ、地区社協のサロンとして登録申請をしています。 ・個別課題解決機能の地域ケア会議は3回開催し、チームオレンジメンバーに参加して頂いた会議では、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発機能も網羅できました。その他の2回は、ケアマネジメントの状況に応じて、タイムリーに開催でき、課題解決に繋がりました。 ・「わかば通信」を2回発行し、包括支援センターの活動、予防事業、チームオレンジの周知や警察とも連携して消費者被害防止に努めました。

令和6年度地域包括支援センター事業運営評価(茅ヶ崎市指標)集計

[illegible]